



府で作成されたと推定されるので、これが調綿に関するものとすれば、その出土の意味についても検討しなければならない。

(4) (7)の四点はいずれも何らかの物品の量を示していると考えられるが、(5)の乾年魚を除き、品名については明らかでない。

9 関係文献

九州歴史資料館『大宰府史跡 平成二年度発掘調査概報』(一九九

一年)

(倉住靖彦)

福岡・観世音寺跡(東辺中央部)



(太宰府)

観世音寺地区については

観世音寺は天智天皇が朝倉橘広庭宮で崩じた斉明天皇追善のために発願した寺院で、天平一八年(七四六)に完成した。大宰府管内寺院の筆頭に位置づけられ、その戒壇院は日本三戒壇の一に数えられた。平安前期までは栄えたが、その後は次第に衰微した。現在、この付近は「観世音寺境内および子院跡」として国の史跡に指定されている。

- 1 所在地 福岡県太宰府市大字観世音寺字今道
- 2 調査期間 一九八九年(平一)三月～八月
- 3 発掘機関 九州歴史資料館
- 4 調査担当者 石松好雄ほか
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

これまでに数次の調査を行ない、多くの知見を得ている。今回の調査では主目的であった東面築地の遺構は検出できなかったが、礎石建物二棟、掘立柱建物二棟、井戸一五基、溝六条などの遺構を検出した。これらは八世紀後半から一四世紀にかけて大きく三時期に分けられるが、建物や井戸の大部分は第Ⅲ期に属するものであった。

出土遺物は、各種の土器・陶磁器・瓦・木製品・銅銭など、従来の調査で検出したものと大差ないが、鰐口に似た仏具である金鼓の鋳型は注目される。かなり破損しているが、ほぼ復原でき、共伴した土器から奈良末期ないし平安初頭のもものと推定される。

木簡一点は発掘区中央部のやや東寄りに位置する南北大溝の北半部で検出した。

8 木簡の积文・内容

木簡は卒塔婆で、時期的には一一世紀後半と推定できる。全体に棒状を呈するが、頂部を尖らせ、二段の切り込み部・額部を設け、その下位約一三cmほどにわたって平面を作っている。全長一一〇・八cm、最大幅二・三cmである。赤外線テレビによれば、上端近くの平面部に五文字程度の墨痕が見られるが、判読は困難である。ほかに二点の墨痕のない木簡状木片がある。

9 関係文献

九州歴史資料館『大宰府史跡 平成元年度発掘調査概報』（一九九〇年）
（倉住靖彦）

佐賀・多田遺跡

1 所在地 佐賀県杵島郡白石町大字今泉字多田

2 調査期間 一九八九年（平1）八月～十二月

3 発掘機関 白石町教育委員会

4 調査担当者 渡部俊哉

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 四～八世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

多田遺跡は白石平野の北西部にあたり、白石町中心部より西約一・五km、標高約二・〇～二・四mを測る水田地帯に広がっている。



遺跡の調査は、県営圃場整備事業に伴う本調査で、白石町教育委員会が一九八七年度から一九九〇年度にかけて実施したものである。水路予定地という限られた範囲の調査ではあったが、「養入厨」（あるいは「養父厨」「大」などの墨書・へ